

当面のスローガン

- 本年こそ「人権侵害救済法」を制定させよう!
- まちづくり運動を起点に広範なネットワーク化をはかろう!
- 続発する差別事件の糾弾を徹底しよう!



発行所
解放新聞和歌山支局
 〒640-8314
 和歌山市神前405-3
 TEL 073-473-2301
 FAX 073-473-2302
 発行責任者
 中澤敏浩

2010年荊冠旗びらき

2010年荊冠旗びらきを1月8日、ダイワロイネットホテル和歌山で午後5時からひらいた。各界各層より多くの来賓はじめ県下の同盟員が参加し、1年のスタートを飾った。

年頭に中澤敏浩・県連執行委員長より「狭山事件にかかわって、東京高裁から証拠開示勧告が出されたことは再審への第1歩となる。気を抜かず石川無罪を勝ち取ろう。また、7月に予定されている参議院選挙に松岡徹中央本部書記長が2度目に挑む。組織をあげて闘うとともに、今年中に「人権侵害救済法」の制定をめざそう。「昨年は差別

事件が続発した。部落差別にとどまらず、一切の差別撤廃に向け、一層の支援をお願いしたい」と決意を述べた。つづいて、谷元昭信・中央本部書記次長より、人権侵害救済法、狭山再審闘争、参議院選挙の3つの課題に対して全力でとりくむことが述べられた。

仁坂吉伸・県知事をはじめ来賓の方々のあいさつに続いて、鏡びらきの後に田上武・県実行委員会会長の発声で乾杯した。

2010年 荊冠旗びらき

部落解放同盟和歌山県連合会

部落解放同盟
和歌山県連合会



差別撤廃にむけてまい進することを誓い合った

- ▲中央本部
谷元昭信・中央本部書記次長
- ▲国会議員
二階俊博、岸本周平、西博義、石田真敏、阪口直人、玉置公良、鶴保庸介、大江康弘代理、吉川保雄、世耕弘成代理、福井康司
- ▲県・市町村
仁坂吉伸・県知事、大橋建一・和歌山市市長、中村慎司・紀の川市長、中芝正幸・岩出市長、田岡実千年・新宮市長、山本恵章・かつらぎ町長、清原雅代・橋本市副市長
- ▲県議会
野見山海・県議会議員
- ▲市町村議会
宇治田清治・和歌山市議会議長、山本忠相・和歌山市議会議員
- ▲労働組合・各種団体
村上正次・連合和歌山会長、田上武・県実行委員会長兼県共闘会議議長、田中達也・県職員労働組合委員長、小倉正義・県商工会議所、蓬臺孝紀・県商工会連合会、谷口昌明・県農業協

同組合中央会、深真樹・総本山金剛峯寺、野口道彦・辻健二・小笠原正仁・胡るみ子・矢野治世美・佐古立子・吉原千恵・人権研究所、長谷智之・関西電力和歌山支店、横山純一・同支店、南真理・同支店、白井信弘・蛇の目ミシン工業(株)和歌山支店、奥井貞信・日本生命保険相互会社和歌山支店、有本俊秋・オーウエル(株)和歌山営業所、栗本利幸・有田鉄道(株)、上農隆弘・イオンリテール(株)西日本カンパニー、池永明・(株)きんでん和歌山支店、前川武雄・(株)クボタ大阪営業課、岩間俊秋・(株)商工組合中央金庫和歌山支店、米田実・(株)損害保険ジャパン和歌山支店、舛田誠・田辺三菱製薬(株)大阪支店、山崎克彦・日の出証券(株)海南支店、前田久男・三菱UFJ信託銀行(株)和歌山支店、赤松明秀・県同宗連、杉本正信・同連、津村清信・同連、岡田陽平・日本郵政グループ労働組合和歌山連協、水田守一・NIT労働組合和歌山分会、有田充治・日教組和歌山、中島俊之・同会、増田篤重・自治労和歌山県本部、宮本健・本州化学労働組合、田中仁・社民党県連合、藤井幹雄・トライ法律事務所顧問弁護士、藤原慎一郎・県平和フォーラム、岩崎保樹・ハローワーク和歌山、森正樹・前県議會議員

▲メッセージ
 ▲中央本部・都府県連
 組坂繁之・中央本部執行委員長、松岡徹・中央書記長、愛知県連、三重県連、京都府連、奈良県連、兵庫県連、岡山県連、広島県連、香川県連、高知県連、佐賀県連、熊本県連

▲祝電
 ▲国会議員
 二階俊博、岸本周平、鶴保庸介、世耕弘成、大江康弘

▲市町村・議会
 神出政己・海南市長、望月良男・有田市長、真砂充敏・田辺市長、寺本光嘉・紀美野町長、岡本章・九度山町長、後藤太栄・高野町長、中善夫・日高町長、上山章善・湯浅町長、入江勉・美浜町長、玄素彰人・印南町長、畑中雅央・由良町長、玉置俊久・日高川町長、立谷誠一・白浜町長、橋本明彦・すさみ町長、奥田貢・北山村長、富安民浩・和歌山県議会議長、出口茂治・海南市議会議長、田中賢司・有田市議会議長、宮田政敏・田辺市議会議長、田和弘満・かつらぎ町議会議長、小松英夫・湯浅町議会議長、岡谷裕計・白浜町議会議長、吉田盛彦・上富田町議会議長、村上修・串本町議会議長

▲団体
 片山博臣・和歌山商工会議所 (順不同・敬称略)

頑健

年末は、NHKの「日本と朝鮮半島2000年」で、10回シリーズの再放送分も含めて観た▼惹かれたのは第1回放送の「古代・人々は海峡を越えた」というタイトル。テレビ「大王四神紀」でお馴染みのヨンスさま演じる高句麗・広開土王(タム・ドク)も登場した。現地のルポ、発掘資料をもとに、日本・韓国の歴史・文化・民俗学の学者を交えての解説や見解。個別の歴史ではなく双方照らし合わせて日本と朝鮮の交流の実相に迫るというもの▼なかでも、珍島・済州島を拠点に、蒙古に屈した高麗に抵抗を続けた「三別抄」。対馬を拠点に東シナ海で神出鬼没の「倭寇」。そして、その倭寇を撃破し、後に朝鮮・李王朝を成立させた李成桂(イ・ソンゲ)らが印象深かった。時代は、強大な蒙古の東方戦略を背景に、ゆれ続けた朝鮮と日本の姿が。日本側の学者は「この頃、海の民には厳格な国家観がなく、もっと自由に交流していた」。イ・ソンゲに敗れた倭寇も日本人だけではなく、海の民や済州島の蒙古の騎馬隊も含まれていたという▼とにかく対馬から釜山の明かりが見える。キムチ好きもDNAのためか。日本・韓国の歴史の根底からの再考を痛感した。

(S・I)